

第13回 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会 議事要旨

1. 日時：平成30年2月2日（金）14:30～16:15
2. 場所：中央合同庁舎8号館4階 426会議室
3. 出席者
 - (1) 構成員
平澤座長、相澤委員、伊集院委員、門永委員
 - (2) 内閣府
北村沖縄振興局長、馬場審議官、水野総務課長、水本次長、重永事業振興室長、山下専門官、田巻専門官

4. 議事要旨

議事1 平成30年度政府予算案について

議事2 平成30年度学園事業計画案について

事務局より資料について説明がされた後、構成員から以下のような主な意見があった。

(研究資金について)

- 事業計画が単なる予算執行書になってはいけない。事業展開において、この部分は国からの補助金、残りは外部資金を獲得して事業を展開するという姿勢を明確にすべきである。

(教育研究について)

- 国際的で最先端な研究と沖縄への振興のための研究は、矛盾が生じることもあると思われる。研究者によってどちらかへ専念するといったようなメリハリをつけて取組むのもひとつではないか。
- 沖縄の振興については、沖縄における OIST の産学連携活動の成果だけに限らず、教育研究活動を行う中での様々な成果が、何かしら沖縄へ波及することと、もっと広い視野で捉えても良いのではないか。
- OIST が誇るトップレベルの人員構成に基づいて、カルテックのような独自の方式を実態化しようとしている。

(規模拡充について)

- 学長が交代したのだから、新学長の構想があつて、各年度の事業計画が作成されるのではないか。今後、10年後見直しの議論をするにあたって、学長の構想が必要になってくると思われる。

(共同研究・産学連携について)

- 沖縄におけるイノベーション・エコシステムの形成について、沖縄県や他機関との連携を促進するといった記載があるが、むしろ沖縄に不足している機能等をどのように整

理するかといったことの方が重要ではないか。

- OIST は工学分野が弱いが、高度なサイエンスの知識がある。高いサイエンスの知識を生かした独自のエコシステムを構築することができる。しかし、原動力となるベンチャーキャピタルを欠いていたりして、特に資金面をしっかりと整備する必要がある。

議事3 検討会の見直しについて

事務局より資料について説明がされた後、構成員から以下のような主な意見があった。

- OIST において研究者が研究等をするにあたって、世界の科学技術の発展に資するという目的があるが、もう一つの目的である沖縄の振興及び自立的発展について、忘れないようにしなければならない。

以上